令和８年２月に、全職員による自己点検・自己評価を行いました。その結果をまとめたものを掲載いたします。この結果を踏まえ、今後も、子ども達により質の良い保育を提供し、保護者の皆さまに安心してお子様を預けていただけるよう、職員一同、精一杯努めて参ります。

１．保育園運営の基本

（１）サービスの質の確保

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
1	職員会議	**職員間において、定期的または随時に情報共有する体制がとられていますか。** ☑①職員全員が参加する会議（職員会議、ミーティング）を定期的に実施している ☑②必要な場合は、職員全員が参加する会議を随時実施している ☑③非常勤・パート職員にも、日々の保育に必要な情報が伝わる仕組みがある ☑④共有された情報は、適切に記録・保存されている ☑⑤職員会議に参加できない職員には、会議録の回覧を行うなど、情報共有する手段を講じている	A	今年度、全職員参加の会議を年度末に一度実施することができた。今後も継続して行っていきたい。

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
2	指導助言の実施体制	**職員が指導助言を受ける仕組みがありますか。** ☑①保育園内に指導助言を行う職員がいる ☑②職員が抱えている課題に的確に応え、法人の理念や基本方針に基づいた指導助言を行う仕組みがある ☑③園長は、指導助言を求めてきた職員への対応の経過を把握している ☑④必要に応じて、専門職の指導助言を受ける仕組みを築いている ☑⑤指導助言の中で得られた解決策は、日々の保育に活かされている	A	法人の理念や基本方針に基づき、実行している。

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
3	個人情報の適切な取扱い	**子どもの（保護者等を含む）に関する情報（データを含む）は、適切に取り扱われていますか。** ☑①子どもに関する情報を記録するために、保育園として統一した様式を作成している ☑②記録の記載方法を正しく理解している ☑③園長は、職員が作成した記録を定期的に確認している ☑④子どもに関する情報は、個別かつ一元的に管理されており、必要な時にすぐに見ることができる	A	個人情報の取り扱いに配慮した記録の利用法にも注意を払っている。

２．子どもの発達援助

（１）発達援助の基本

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
4	保育課程	**保育課程は、関係法令や子どもの発達特性を踏まえ、長期的見通しをもって適切に編成されていますか。** ☑①保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育園保育指針などの趣旨をとらえて編成している ☑②保育課程は、全職員が参画し、共通理解と協力体制のもとで編成している ☑③保育課程における具体的なねらいや内容は、発達過程や年齢、個人差を踏まえた内容になるよう工夫している ☑④保育課程と指導計画には連動性を持たせている ☑⑤保育課程は、地域特性やこれまでの蓄積を生かした特色あるものになっている	A	保育課程に基づいて行われている。
No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
5	指導計画	**指導計画は、定期的に評価および見直しが行われていますか。** ☑①指導計画の評価は、毎月１回、定期的に行っている ☑②指導計画の評価は、クラス担任全員で行っている ☑③指導計画を見直す必要が生じた場合は、変更している ☑④指導計画に対する評価および見直しの結果は、次の計画作成に活かしている ☑⑤園長は、指導計画の評価および見直しにあたり、必要な指導を行っている	A	子ども達の実態に基づいて、指導計画の見直しを行っている。

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
6	理解と受容	**子ども一人一人への理解を深め、受容していますか。** ☑①職員は、常に、子どもが安心して自分の気持ちを表現できるような態度で接している ☑②子どもの要求や質問などに対して、何を求めているかを理解し、適切に対応している ☑③「早くしなさい」とせかす言葉や、「だめ」「いけません」と制止する言葉を必要以上に用いないよう心がけている ☑④自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちを受け止め、言葉で表すなどしながら、適切に対応している ☑⑤登園中や保育中に泣く子どもに対して、放っておいたり叱ったりせず、状況に応じて、抱いたり優しく声掛けをし、子どもの気持ちに寄り添うようにしている	A	子ども一人一人への理解を深める努力をしている。
No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
7	さまざまな人との交流	**さまざまな年代や文化を持つ人たちに親しみを持つよう働きかけていますか。** ☑①子どもが年代や文化、生活習慣の違いを理解できるよう働きかけている ☑②保育園の中で、異年齢の子どもとの交流が行われるよう計画している ☑③保護者に対して、異年齢の子どもや年代の異なる人たちと交流する目的について説明を行っている □④外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮を行っている □⑤意思疎通が困難な場合、母国語による資料提供や筆談など、代替策を用意している	A	人権に配慮し、互いを尊重し合う心を育てる保育をしている。 現在、外国籍の子や帰国子女は通っていない。

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
8	先入観等を植え付けない配慮	**性差への先入観による固定的な概念や役割分業意識を植え付けないような配慮を行っていますか。** ☑①遊びや行事の役割、持ち物、服装などで性別による押し付けをしないよう配慮している □②無意識のうちに性差による固定観念で保育を行わないため、職員研修を実施している ☑③子どもや保護者等に対して、父親・母親の役割を固定的に捉えた話し方、表現をしないようにしている ☑④育児、家事、介護、職業について、保育園は、固定的に捉えた話し方、表現をしないという姿勢を持っていることを、保護者等にも伝えている	B	性差における研修は実施していない。

（2）健康管理・食事

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
9	健康状態の把握	**子どもの健康管理は、適切に行われていますか。** ☑①子どもの健康管理に関するマニュアルがある ☑②既往症や予防接種の状況について、保護者等から１年に１回必要な情報を得るようにしている ☑③子ども一人一人の健康状態に関する情報が関係職員に周知されている ☑④子どもの体調悪化・けがなどについては、特に留意して保護者等に伝えている ☑⑤必要に応じて、降園後の対応について職員間で話し合っている	A	登園時や保育中の健康管理を行い、関係職員の間で、情報共有の取り組みを行っている。

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
10	健康診断等の実施	**内科検診や歯科検診を定期的に行っていますか。** ☑①内科検診は、年齢別に適切な回数で実施している ☑②歯科検診は、定期的に実施されている □③内科検診および歯科検診の結果は、全職員に周知されている ☑④内科検診および歯科検診の結果は、保育内容に反映されている ☑⑤内科検診および歯科検診の結果は、保護者等に伝えられている	B	年２回実施されている。内科の結果は、職員全体で把握しているが、歯科の結果は、クラス担任以外の職員には周知されていない。

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
11	食事環境の整備	**子どもにとって、食事が楽しみとなるよう配慮していますか。** ☑①子どもが落ち着いて、楽しく食事ができるよう、テーブルやいす、音などの環境を工夫している ☑②発達に合わせた食事の援助を適切に行い、食事のマナーが身に付くよう配慮している ☑③食べたいものや食べられるものが少しでも多くなるように援助している ☑④年齢や障害、疾病等により、食事に特別な配慮を必要とする子どもに対しても、食事が楽しめるよう工夫している ☑⑤職員は、子どもの食べる量や好き嫌いを把握している	A	保育園における食生活での配慮を行い、食育の促進にもつなげている。

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
12	食育の推進	**子どもが、生活と遊びの中で、食事が楽しみになるよう働きかけていますか。** ☑①食事の提供を含めた「食育の計画」を策定している ☑②地域のさまざまな食文化等に関心を持つことができるよう、食事内容や行事等の内容にも配慮している ☑③食事は、季節感のある献立や食材を利用している ☑④食事を調理してくれた人への感謝の気持ちや命を大切にする気持ちを育むよう働きかけている ☑⑤子どもたちが、調理作業をしている場面を見たり、給食の先生と言葉を交わしたりできるような場面を作っている	A	栽培活動、クッキング、バイキング形式の給食など、食を営む力が身につくよう、様々な活動に取り組んでいる。

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
13	子どもの状況に応じた食事の提供	**アレルギー疾患や体調不良の子どもがいる場合、子どもの状況に応じた食事が提供されていますか。** ☑①除去食や特別食を提供する場合は、主治医の指示を受けると共に、保護者からも詳しく説明を受けている ☑②除去食の提供にあたっては、除去する食の選定に関する基準がある ☑③子どもが持つアレルギー疾患や体調について情報を収集し、食材や調理方法を変えて提供している ☑④子どもに関わる全ての職員には、アレルギー疾患について必要な知識や情報が周知・共有されている ☑⑤除去食は、トレイの色を変えるなどして、子どもや職員が取り間違えないように配膳の工夫をしている	A	アレルギー疾患を持つ子どもだけでなく、体調不良の子どもに対して調理方法を変えて食事を提供するなど、保育者だけでなく、調理員ともしっかり連携をとっている。除去食が出る日は、朝礼で伝え、全職員に周知される。

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
14	家庭との連携	**保育園で提供する食事について、保護者等に対して説明し、理解を得ていますか。** ☑①保護者等に対して、発育期にある子どもの食事の重要性や保育所での食事の取組について説明している □②保護者向けに試食の機会を設けるなどして、栄養、味付け、食べ方等の配慮内容を伝えている ☑③サンプルを示し、その日の献立や量を保護者等に伝えている ☑④保護者から、子どもの食事について相談された場合は、相談内容にふさわしい職員が対応している ☑⑤登園時の保護者からの話等を踏まえて、必要な場合は食事量の調整を行っている	B	サンプルで示してはいないが、おたより機能において、給食の写真を送る取組を始めた。今後も継続して行っていきたい。保護者向けに試食会は設けていない。体調不良等で、食事量について相談があった日には、調整をしている。

（3）保育環境

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
15	空間の確保	**保育園は、子どもが心地よく過ごせるような空間が確保されていますか。** ☑①室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境は、常に適切な状態に保持されている ☑②保育園内外の設備、用具等の衛生管理に務めている ☑③戸外の遊具等、安全管理、点検が行われている ☑④本を読んだり、絵を描いたり、創作活動が自由にできるスペースがある ☑⑤季節の移り変わりが感じられるような環境となるよう工夫している	A	子ども達が心地よく過ごすことができるような環境整備についての取り組みを、継続している。

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
16	設備・環境	**保育園は、子どもたちの心身の安らぎ、くつろぎの面から配慮された場所となるよう、工夫されていますか。** ☑①子どもが不安になった時などにいつでも応じられるよう、保育者が身近にいる ☑②眠くなった時に安心して眠ることができる空間が確保されている ☑③園庭など、屋外での活動の場が確保されている ☑④一人一人の子どもがくつろぎ、落ち着ける場所がある ☑⑤自然物を取り入れるなど、季節に合わせた保育環境が工夫されている	A	養護の基本を支える環境作りに努めている。

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
17	保育環境の整備	**子どもが自発的に活動できる環境を整える工夫を行っていますか。** ☑①子どもが自由に遊べる時間が確保されている ☑②子どもが自由に素材や用具などを自分で取り出して遊べるよう工夫している ☑③自発的な遊びができる環境が整えられている ☑④職員全員が、子どもが自発性を発揮できるような働きかけをするよう心がけている ☑⑤子どもの発達段階に即した玩具や遊具が検討され、用意されている	A	指導計画、保育日誌等に、子ども達が自発的に活動できる環境を明記し、活動を援助している。

（4）保育内容

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
18	社会的なルールや態度の獲得	**子どもが、社会的に望ましいルールや態度を身につけるよう、働きかけていますか。** ☑①職員は、常に公平で温かい態度や言葉づかいで子どもに接し、信頼関係を築くようにしている ☑②順番を守るなど、社会的ルールを身に付けるよう配慮している ☑③当番活動などが日常生活の中で行われている ☑④一人一人の子どもの自主性を尊重し、家庭と連携しながら子どもの状況に応じた対応をしている □⑤地域の公共機関を利用するなど、社会体験が得られる機会を設けている	B	園バスがあることにより、地域の公共機関を利用する機会が得られていない。地域の公共機関を利用して園外に出る機会を設けていきたい。

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
19	表現活動	**身近な環境の中で、感覚を豊かにし、活動を楽しめるよう働きかけていますか。** ☑①身近な自然と関わる機会をつくり、子どものさまざまな興味を引き出すようにしている ☑②生活や遊びを通して、数・量の感覚が身につくように工夫している ☑③身体を使ったさまざまな表現遊びが取り入れられている ☑④クレヨン、絵の具、粘土、紙等の素材は、子どもが自由に選択できるよう、常に複数種類を用意している ☑⑤絵本の読み聞かせ、お話し、紙芝居などを日常保育の中に取り入れている	A	身近な自然や社会とのかかわりの中で、様々な表現活動に取り組むことができている。

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
20	人間関係	**遊びや生活を通して、人間関係が育つよう働きかけていますか。** ☑①職員は、子ども同士の関係をよりよくするような、言葉かけを行っている ☑②子ども同士のけんかの場面では、危険がないように配慮しながら、子ども同士で解決するように援助している ☑③子どもが自分の気持ちを安心して表すことができるよう働きかけている ☑④自分の言いたいことが相手に伝わる喜びを味わう体験ができるように配慮している ☑⑤子どもの発達段階に応じて、見守り、共感、励ましなど、やる気を育てるような働きかけをしている	A	遊びや生活を通して、子どもの年齢に応じた人間関係の育成が行えるよう、保育課程や指導計画に組み入れている。

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
21	乳児保育	**乳児保育の為の環境が整備され、保育内容や方法に配慮していますか。** ☑①一人一人の生活リズムに合わせた保育を行っている ☑②全職員にＳＩＤＳ（乳幼児突然死症候群）に関する知識が周知され、予防のための取り組みが行われている ☑③授乳は、一人一人の状況に応じて、子どもが安心できる環境に配慮し、ゆったり飲ませている ☑④離乳食は、家庭と連携して提供するようにしている ☑⑤保護者と継続的な関わりが持てるよう、配慮している	A	乳児一人一人の発育及び、発達状態をよく把握した保育実践を心がけている。

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
22	長時間保育	**長時間保育のための環境が整備され、保育内容や方法に配慮していますか。** ☑①長時間保育を受ける子どもに軽食を提供している ☑②畳やじゅうたん、ソファなど、寝転ぶことのできる環境がある ☑③異年齢の子ども同士が遊べるよう配慮している ☑④保護者との連携を密に取り、子どもの生活のリズムに配慮している ☑⑤職員の引き継ぎ（申し送り）を適切に行っている	A	家庭的な雰囲気を作り出すための工夫や、保護者との連携、職員間の引継ぎをしっかりと行っている。

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
23	障害児保育	**障害児保育のための環境が整備され、保育内容や方法に配慮していますか。** □①建物、設備は、バリアフリーの配慮を行っている ☑②障害児保育に携わる職員は、障害児保育に関する研修を受講している ☑③必要に応じて、医療機関や専門機関から助言、指導を受けている ☑④保護者に対して、適切な情報を伝える取り組みをしている ☑⑤障害のある子どもと、障害のない子どもが、適切な関りができるよう配慮している	B	建物、設備等に関しては、バリアフリーの配慮はなされていない。バリアフリーを必要とする子どもは現在在籍していない。

３．子育て支援

（１）保護者等への支援

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
24	信頼関係の構築	**保護者等の気持ちに共感しながら、信頼関係を築くよう努めていますか。** ☑①送迎時の会話や連絡帳を活用して、子どもの様子を伝えている ☑②入園までの生活歴や家庭での状況を把握している ☑③保育参加（参観）を行うなどして、保護者と共通理解を得る機会を設けている ☑④保護者の意向、希望を踏まえて、必要であれば個別面談を実施している	A	送迎時の会話や、連絡帳を十分に活用して、信頼関係の構築に努めている。

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
25	保護者等との連携、共有	**子どもの生活の連続性を踏まえ、保護者等との連携および情報共有が行われていますか。** ☑①連絡（ノート）やメール等を活用し、情報共有するようにしている ☑②「園（クラス）だより」や「お知らせ」により、保護者等に対して保育や行事についての意図を伝えている ☑③定期的に、アンケートを行い、保育方針に対する保護者の理解度や保護者の保育ニーズを把握している ☑④保護者と、子どもの生活ぶり、成長等に関する情報を常に共有するようにしている ☑⑤長期欠席等に対しては、連絡を取り、個別に相談の機会を設けている	A	子どもの成長を喜び合い、保護者との連携を深めている。参観週間、運動会、発表会など、新たな行事を行ったり、これまでとは内容の異なる行事を行ったりしたため、これらの行事に関するアンケートを行った。保護者の様々な意見や感想を聞くことができてよかった。保育に活かしていき、今後も継続して行っていきたい。

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
26	相談・情報提供	**保育に関する知識や技術を活かして、保護者等からの相談にあたっていますか。** ☑①保護者等からの相談に応じる体制を作っている ☑②保育に支障をきたさない範囲で、相談の曜日や時間は、相談者の意向を汲んで対応している □③相談者に提供できるような子育て支援のための資料を作成している ☑④相談内容の記録は、記載内容にバラつきが生じないための工夫を行い、適切に保管している ☑⑤相談を受けた職員が適切に対応できるよう、助言が受けられる仕組みがある	B	相談者に提供できるような子育て支援のための資料はあまり作成できていない。

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
27	不適切な養育に対する支援	**虐待等、不適切な養育が行われている可能性があると感じた場合は、速やかに対応していますか。** ☑①子どもの心身の状態を定期的、継続的に観察し、必要に応じて記録している ☑②日々の登園・降園時などの様子から、保護者等と子どもの関係を観察している ☑③不適切な養育の可能性があると感じた場合は、速やかに保育園内で情報共有し、対応を協議している ☑④保育園での対応に限界がある場合は、関係機関に通報している ☑⑤虐待を発見した場合は、速やかに市区町担当者や子ども家庭センターに通報している	A	日ごろから職員間で情報交換をしっかりと行い、園長に迅速に情報を届ける体制を作っている。

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
28	虐待等への対応	**虐待を受けている子ども（虐待の可能性がある場合を含む）に対して、適切に対応していますか。** ☑①虐待を発見した場合は、得られた情報が速やかに園長に届く体制がある ☑②虐待を発見した場合の対応等について、マニュアルがある □③マニュアルにもとづいて、職員研修を行っている ☑④職員は、虐待が疑われる子どもの特徴を理解している ☑⑤日頃から、関係機関と連携を図るための取り組みを行っている	B	体制は整っているが、研修は行っていない。

４．子どもの安全

（１）安全・事故防止

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
29	食中毒・感染症対策	**食中毒や感染症に対する予防および発症後の対策は、適切に行われていますか。** ☑①食中毒や感染症に関する予防マニュアルおよび対策マニュアルを作成している ☑②マニュアルは、職員に周知されている ☑③子どもに対して、食中毒・感染症予防に関する教育を行っている ☑④保護者等に対して、食中毒・感染症に関する普及啓発を行っている □⑤職員の健康状態をチェックし、体調の悪い職員の交替基準を明確にし、運用している	B	予防するための対策はとられているが、交替基準は明確に示していない。

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
30	事故・天災への対応	**事故や天災が発生した場合、速やかに対応できる体制がありますか。** ☑①子どもの状態急変や事故発生等、緊急時の対応方法や連絡先などのマニュアルがある ☑②子どもの緊急連絡先を把握している ☑③職員は、救急救命法について研修を受講している ☑④火災や地震を想定した避難訓練を定期的に実施している ☑⑤保育園内で起きた「ヒヤリ・ハット事例」を蓄積し、事故発生を未然に防ぐための検討をしている	A	事故や火災等の対策についての取り組みを行っている。

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
31	不審者対策	**不審者の侵入などに対応できる体制がありますか。** ☑①不審者等の侵入防止策（出入口の施錠、通報システム等）が講じられている ☑②不審者の侵入時における対応マニュアル（園内・園外）が整備されている ☑③不審者対応マニュアルは、職員に周知されている ☑④不審者の情報が、関係機関や近隣住民等から得られるネットワークがある □⑤警察や警備会社等との連携のもとで、マニュアルにもとづく研修が行われている	B	日ごろから職員に対してマニュアルの周知や研修が実施されている。警察や警備会社等との連携のもとでの研修は行われていない。

５．地域との関わり

（１）関係機関および地域との連携

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
32	関係機関との連携協力	**こども家庭センター、要保護児童対策地域協議会、小学校等と連携し、必要に応じて協力体制を築いていますか。** ☑①障害や発達上の課題がみられる子どもとその保護者等には、専門機関を紹介し、一緒に支援している ☑②小学校児童と保育園児の交流行事を行い、定期的に情報交換するなど、小学校との連携体制がある ☑③関係機関や専門機関などと定期的に情報交換する等ネットワークを築いている ☑④要保護児童対策地域協議会の構成メンバーとなり、要保護児童の早期発見や保護に協力している ☑⑤行政の支援の下に子どもの育ちを伝えるための資料（保育要録など）が小学校に送付されるような体制を作っている	A	地域内の様々な機関や団体と協力体制を持ち、連携している。
No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
33	地域の子育て支援	**地域の子育て支援の拠点として、子育て家庭に対して保育園機能を還元していますか。** ☑①できる範囲で、保育園を利用していない子育て家庭からの相談に応じるようにしている ☑②できる範囲で、園庭開放、子育てセミナー等を行うようにしている ☑③できる範囲で、交流保育等を行うようにしている ☑④緊急入園については、関係機関と連携し、柔軟かつ速やかに行われるよう努めている ☑⑤地域の子育て支援ニーズについて、職員が話し合う機会を定期的に設けている	A	地域や保護者のニーズに寄り添い、ニーズに合わせた取り組みを行っている。

No.	小項目	設　　問	自己評価	判断した理由等
34	一時保育	**一時保育のための環境が整備され、保育内容や方法に配慮していますか。** ☑①一時保育の子どもと通常保育の子どもとの交流に配慮している ☑②一人一人の子どもの日々の状態を把握している ☑③一時保育の担当者が決められている ☑④保護者とのコミュニケーションを十分にとっている ☑⑤必要なケースについて、相談に応じている	A	一時預かり事業の実施により、就労等の理由で子どもを預けたい保護者のニーズに応えることができている。